

1 平成17年木材（用材）需給実績見込みの概要

木材（用材）の総需要量は、平成17年の新設木造住宅着工戸数が横ばいであるものの、木造住宅の約8割を占める戸建が減少したことなどから、前年に比べ約350万 m³ 減の8,631万 m³（対前年比96.1%）と見込まれる。

国産材については、製材用、合板用、パルプ・チップ用ともに増加することが見込まれることなどから、前年に比べ約90万 m³ 増の1,746万 m³（対前年比105.5%）と見込まれる。

輸入材については、船運賃の高騰や米国の好調な住宅着工による産地高などによるコスト上昇等により丸太、製材品、パルプ・チップ用ともに減少することが見込まれることなどから、前年に比べ約440万 m³ 減の6,885万 m³（対前年比94.0%）と見込まれる。

また、用材自給率は、前年実績の18.4%を1.8ポイント上回り、20.2%（暫定値）と見込まれる。

なお、確定値は、本年9月頃に公表される予定である。

2 平成18年木材（用材）需給見通しの概要

木材（用材）の総需要量（総供給量）は、平成18年の新設木造住宅着工戸数のうち、持家が減少するものの、貸家がやや増加することなどから、前年に比べ約19万 m³ 増の8,649万 m³（対前年比100.2%）とほぼ横ばいと見通される。

国産材は、製材用が横ばい、合板用とパルプ・チップ用が増加すると見込まれることなどから、前年に比べ約24万 m³ 増の1,770万 m³（対前年比101.4%）と見通される。

輸入材は、円安傾向や米国の堅調な住宅着工による産地高などによるコスト上昇等により丸太、製材品ともに減少するものと見込まれることなどから、前年に比べ約5万 m³ 減の6,880万 m³（対前年比99.9%）と見通される。

また、国産材の用材自給率は、20.5%（見込み値）と見通される。

木材（用材）の需給の実績と見通し

別添

(単位：千m³)

年次	需					供					給						
	総数	製材用	合板用	パルプ・チップ用	その他用	総数	国産材			工場残材	輸入材						
							総数	丸太	林地残材		総数	丸太	製材	合単板	チップ	パルプ	その他
7年	111,922	50,384	14,314	< 6,280 > 44,922	2,302	111,922	22,916	22,898	18	< 6,280 >	89,006	25,865	15,982	6,993	26,411	11,990	1,765
8年	112,331	49,758	15,726	< 6,443 > 43,822	3,024	112,331	22,489	22,475	14	< 6,443 >	89,842	25,126	16,188	8,415	26,361	11,248	2,503
9年	109,905	48,339	15,252	< 6,266 > 43,736	2,578	109,905	21,568	21,555	13	< 6,266 >	88,337	22,966	17,119	8,422	26,406	11,327	2,097
10年	92,058	37,161	11,146	< 6,299 > 42,140	1,611	92,058	19,333	19,318	15	< 6,299 >	72,725	18,597	10,582	6,082	25,721	10,541	1,201
11年	97,812	41,178	13,705	< 6,166 > 40,956	1,972	97,812	18,764	18,739	25	< 6,166 >	79,048	18,787	15,081	8,181	25,295	10,144	1,560
12年	99,263	40,946	13,825	< 6,537 > 42,186	2,306	99,263	18,022	17,990	32	< 6,537 >	81,241	18,018	15,913	8,424	26,661	10,320	1,904
13年	91,247	37,087	13,074	< 6,319 > 38,706	2,379	91,247	16,759	16,724	35	< 6,319 >	74,488	15,942	14,340	8,423	25,104	8,659	2,019
14年	88,127 (96.6)	34,856 (94.0)	13,226 (101.2)	< 7,174 > 37,607 (97.2)	2,438 (102.5)	88,127 (96.6)	16,077 (95.9)	15,982 (95.6)	95 (271.4)	< 7,174 > (113.5)	72,050 (96.7)	14,865 (93.2)	13,694 (95.5)	8,502 (100.9)	24,791 (98.8)	8,101 (93.6)	2,097 (103.9)
15年	87,191 (98.9)	34,766 (99.7)	12,810 (96.9)	< 7,951 > 36,979 (98.3)	2,636 (108.1)	87,191 (98.9)	16,155 (100.5)	16,012 (100.2)	143 (150.5)	< 7,951 > (110.8)	71,036 (98.6)	14,398 (96.9)	14,088 (102.9)	7,897 (92.9)	24,337 (98.2)	8,022 (99.0)	2,294 (109.4)
16年	89,799 (103.0)	35,041 (100.8)	13,976 (109.1)	< 7,682 > 37,981 (102.7)	2,802 (106.3)	89,799 (103.0)	16,555 (102.5)	16,434 (102.6)	121 (84.6)	< 7,682 > (96.6)	73,245 (103.1)	14,329 (99.5)	14,468 (102.7)	8,587 (108.7)	25,112 (103.2)	8,292 (103.4)	2,456 (107.1)
17年 見込み	86,305 (96.1)	33,355 (95.2)	12,670 (90.7)	< 7,605 > 37,549 (98.9)	2,731 (97.5)	86,305 (96.1)	17,459 (105.5)	17,338 (105.5)	121 (100.0)	< 7,605 > (99.0)	68,846 (94.0)	12,282 (85.7)	13,305 (92.0)	7,959 (92.7)	25,251 (100.6)	7,649 (92.2)	2,400 (97.7)
18年 見通し	86,491 (100.2)	32,677 (98.0)	13,218 (104.3)	< 7,362 > 37,822 (100.7)	2,774 (101.6)	86,491 (100.2)	17,696 (101.4)	17,575 (101.4)	121 (100.0)	< 7,362 > (96.8)	68,795 (99.9)	12,105 (98.6)	13,342 (100.3)	7,778 (97.7)	25,478 (100.9)	7,649 (100.0)	2,443 (101.8)

資料：平成7年～平成16年は林野庁「木材需給表」。

- 注：
1. 輸入材のうち、製材、合単板、チップ、パルプ及びその他は、丸太換算材積である。
 2. 本表には薪炭材及びしいたけ原木を含まない。
 3. 輸入の構造用集成材は需要のその他用、供給のその他に含まれている。
 4. < >内は、工場残材及び解体材・廃材を利用した木材チップの需要量(供給量)であり、製材用等に丸太換算して含まれているため外書きとした。
 5. ()内は、前年比(%)である。
 6. 数値の合計値は、四捨五入のため一致しない場合がある。